

和歌山市東長町、七曲商店街の一角には「はんこ屋さん」の印章堂」があります。来年創業70年を迎える昔ながらのお店ですが、近年、メッセー

ジ付き似顔絵はんこ「似てルンです！」が話題となり、地元公式キャラクターいちゃんグッズを手がけるなど従来の事業に留まらない、新たな展開を図っています。

同社常務の浅井隆一さん(39)が熱を入れるのが2016年4月に発生した熊本地震の被災地支援です。浅井さんは震災の翌年、報道で復興が進まず、多くの人が仮設住宅での暮らしを強いられている

「和歌山から来てくれた」と手を握り、感謝を伝えてくれる人もいる中、浅井さんが一番心打たれたのは被災地の子どもたちの笑顔と元気です。「落ち込んでいても仕方がない厳しい状況なのに、みんな前を向いて一日一日しっかりと生きています。逆にこちらが勇気付けられました」

昨年熊本市にある秋津中央公園の仮設団地を訪れて住

## 笑顔贈るはんこ屋さん



子どもたちと話す浅井さん

民とふれ合い、今年は9月8日、同市で開かれたY.M.C.A.の地域交流イベントに参加し、子どもたちにしおり作りを楽しんでもらいました。

報道の機会が減った熊本ですが、今年5月現在で1万人が仮設で暮らしています。報道の機会が減少しながら、多くの企業は一步を踏み出せません。しかし、活動には恵みがあると浅井さんは言います。「現地に行くと、自分たちの普段の環境が当たり前のものではなく、時に当たり前に甘えている自分たちに気づきます。地元へ帰り、今一度、気持ちは得られました」

ふれ合いから得られた力は企業を質的に豊かにし、地域にも良い波及を呼ぶでしょう。最初の一步の大きさを感じます。(高垣善信・本紙主筆 毎月第1土曜号掲載)

# 和歌の浦に笙の響き

## 玉津島保存会 塚田由里子さん初演奏会

古来から日本に伝わる管楽器、笙(しょう)の響きに触れてもらおうと、玉津島保存会メンバーで和歌山市の塚田由里子さん(51、写真)が14

日に午後1時、同市和歌の浦の中玉津島神社で演奏会を開く。同神社観月短歌祭での催しで、塚田さんと初演奏会。「雅な音色に触れ、この楽器

の可能性を感じてほしい」と望んでいる。東京出身の塚田さん。2004年に家族と同市に移り住んだ。笙を初めて手にしたのは11年。東



日本大震災が起き、「いつ何が起きるか分からない。やりたいことをやろう」と市民会館で始まった伝統文化教室で雅楽を学び始めた。

学生時代に女声コーラスグループに所属し、日本大震災が起き、「いつ何が起きるか分からない。やりたいことをやろう」と市民会館で始まった伝統文化教室で雅楽を学び始めた。

## 社会

### 家族農林漁業プラ

トフォーラム和歌山設立記念フォーラム18日(金)午後6時15分、JR和歌山駅前のJビル2階。国連家族農業の10年に合わせて今年設立された家族農林漁業プラットホーム

市手平のビッグ愛1階、紀州の和菓子と文化を考える会の鈴木裕範代表が講演した後、近畿地方の城下町にある老舗和菓子店の代表4人が、城下町再生について意見交換する。無料。希望者は名前

農林漁業プラットホームの地方組織が和歌山に立ち上がるのを記念する講演

電話番号を同会(FAV 073・428・2680 kshiwagashi@gmail.com)。先着100人。